



相互扶助などに尽力
すぎいのりこ
杉井 紀子さん

Vol.25

つむいだ絆の輪 今後も広げたい

相互扶助とコミュニティの構築を目的に
ルール地区で21年間、活動を続けてきた
「ルールの会」が今春、幕を下ろしました。
地域通貨の導入や野外音楽会の開催など
を通じて、地域住民の連携を育みました。
2人の事務局担当者の協力を得て会を支え
てきた杉井さんを訪ねて話を聞きました。

かつての炭都・夕張市の出身。自然が大好きで、四季折々の季節を肌で感じていきます。夫が苫小牧市に異動するのをきつかけに、木々に囲まれたルールピレッジの分譲地を購入し、昭和63年に引っ越ししました。「当初は、6件ぐらいでした。移住者が増えるのに伴い、住民間のコミュニケーションの大切さを考えました」。ノウハウはありませんでしたが、一つの手法として着目したのが、当時、関心を集めていた地域通貨です。平成13年4月に18世帯が加入してルールの会を発足し、手探りで活動を始めました。

野外コンサートを開こうとなれば、自発的にステージを設営する人もいました。「お互いに協力し合いながら、その場を楽しんでいました。アットホームな雰囲気でしたよ」と杉井さんは笑みを浮かべました。

移住者は増えましたが、胆振東部地震の影響や住民の高齢化が進み、交流は途絶えがちになりました。「若い人たちの参加も少なく、顔を合わせる機会は減りました」と杉井さんはつぶやきました。

お気に入りのバルコニーで、町の印象を尋ねました。豊かな自然と地の利に加え、「親切な町民が多いのが厚真の魅力」と即答しました。以前に比べて顔の見える付き合いが減ってきたことに、少し寂しさを感じています。

「組織だった活動はできませんが、今後も身の丈に合わせて絆の輪を広げたいですね」。